

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 瀬・淵を意識した河床掘削についての職員研修の取り組み		
水系/河川名 : -	河川分類 : 0	
河川の流域面 -	整備計画流量 : -m ³ /s	セグメント : 0
事業 : その他	事業開始年度 令和3年度	
目標設定 : 定性的	段階 : P(計画時)	
課題・目的(主な): 瀬・淵の保全・再生・創出		
工法(主な): 掘削(河床)		
配慮事項(主な): 人材育成		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

今後の気候変動に伴う豪雨の頻発化・激甚化を見据えると、河川の維持・管理はより一層重要となる。特に、河道内の土砂堆積(樹木繁茂)の進行等による流下断面の阻害は、住民等の安全・安心が脅かされるとともに、社会経済活動にも甚大な影響を及ぼしかねない。

一方で、定規断面で河床を一様に整地する河床掘削を実施している事例が多く、河床の物理環境を単調化させ、生態ピラミッドでみたときの上位の生物群集の多様性に影響を与えている。今あるきれいな川、多様な生き物や植物が育まれている川を後世に引き継いでいくためには、私たちが行う河川工事の中に、多自然川づくりの考え方を取り入れていくことが必要不可欠である。

しかし、これまで高知県が行ってきた「多自然川づくり」は限定的で、組織としての取り組みとしては不十分な状態となっているのが現状である。施工箇所の周辺に良い環境が残っているから配慮しないではなく、良い環境を残していくためには河川工事で積極的に実践していく意識を職員が持つ必要がある。

<目標設定>

若手職員を対象とした多自然川づくりの研修を行い、多自然川づくりの考え方を取り入れて、河床掘削に取り組むことで、若手技術者の技術力向上、意識改革をはかる。

取り組み内容・対策例 (1/2)

<取り組み内容>

1. 多自然川づくりの考え方を学習
川づくりでの重要な視点を学ぶ

2. 河床掘削の事例学習

うまくできた事例

着手前: 定期断面で河床を一様に掘削

掘削後

1年後: 出水で目標がはらけ瀬・淵が再生

完成: 掘削によって生じた石塊を点状に配置

少し失敗した事例

着手前

完成 (R2施工): 河床に目標を配慮 護岸前に電石を設置

完成 (H23施工)

工法をすることが多自然川づくりとなっていないか。保全する対象、得たい効果にか。その川、その場所の条件で検討する必要がある。

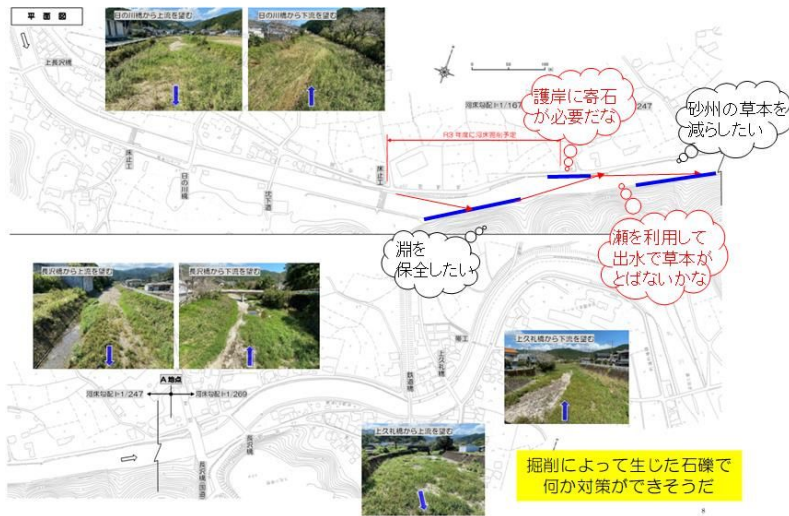
うまくできた事例

少し失敗した事例

取り組み内容・対策例 (2/2)

3. 例題を用いて計画演習

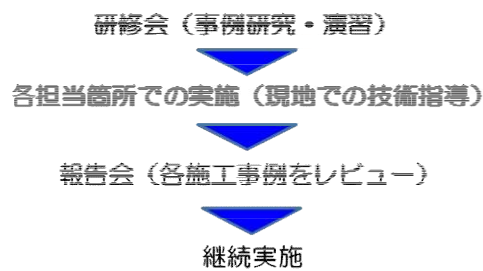
長沢川 ～桜並木の美しい景観を取り戻す～



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<今後の対応>

研修で学んだことをそれぞれ担当する箇所で実践し、また、その経験を共有しながら、次の事業に展開、取り組みを継続させる。



備考